



大分県立竹田高等学校  
関東同窓会報

第25号

発行者・会長 長吉 泉  
編集者・委員長 神田 清  
発行所・関東同窓会事務局  
〒248-0025 神奈川県鎌倉市  
七里ガ浜東 2-37-6  
電話 0467-31-5715  
FAX 0467-31-5715

印刷・佐伯印刷 ㈱

### 大分県立竹田高等学校

## 関東同窓会 第16回総会・懇親会

とき 平成14年7月20日(日)

ところ ホテルセンチュリーハイアット

当番幹事 日高 慶記 (昭46年卒)

### ●平成十四年度

### 総会報告

第十六回竹田高校関東同窓会が七月二十日海の日に新宿センチュリーハイアットホテルで開催された。当日は猛暑となったが、二〇〇名を超える参加者が元気に集い会の発展を祝した。総会は十二時より開始された。各方面で活躍のご来賓を迎え、参加者の注視する中、関東同窓会の活動内容や会計が報告され了承された。関東同窓会 長吉会長より会を継続させることの大切さ、安部校長より母校のがんばりについて、同窓会土居会長より同窓会をより発展させるむね挨拶があった。参加者一同心強く感じる中、総会は無事終了した。

引き続き、長老を代表して足立さんのユーモアあふれる乾杯の発声により懇親会が始まった。今回は三十六年卒と四十六年卒が進行役をつとめた。食事は和洋中華、お酒も好みを選ぶビュッフェスタイル。地元のお酒も差し入れられた。ピアノ伴奏がながれる中、久しぶりに会う旧友との語らいで、すぐさま和やかな雰囲気となった。卒業アルバムを囲んで昔を懐かしむ姿や、記念写真を撮りあう姿もみられた。お酒が入り盛り上がったところでビンゴゲームが始まった。カードをしつかり握り番号を心待ちにして、当たるという期待感で皆真剣そのもの、番号が出るたび童心にかえり一喜一憂して、みごと当てた人は信じられない風だった。後半は学年を超えた交歓も始まり、会場はいつそう賑やかになった。

会場の一角には竹田の特産品コーナーが設けられ、カボス、しいたけ、お菓子がならんだ。なつかしさも手伝ってか好調な売れ行きであった。終盤に近づきストームをすることになった。会場に二重の輪ができ肩を組み、足を上げての大合唱。いつのまにか我を忘れて熱中した。続いての校歌斉唱は三番まで高らかに歌いあげた。最後に次回の三十七年卒と四十七年卒の当番幹事に引き継ぎを行い、来年の再会を約束し午後三時散会となった。遠く竹田を離れ、竹田を想う人々が集い、つかの間の学生気分に戻った「ひととき」であった。

●第五回竹田・東京懇談会開催  
平成14年11月8日(金)  
平成14年11月8日(午後3時～5時)竹田会の総会に先だって、竹田市から上京された来賓(古井議長、内川市議、姫野会頭、菅観光協会長、後藤氏、板井氏他)を交えて、長吉明大理事長、竹田会・里見会長初め関東在住の竹高同窓会並びに竹田会の主だったメンバーが日本橋パーカービル・2Fの大会議室で連絡会を行った。来賓を代表して古井議長より、昨年来稲葉川の水量を戻し綺麗な川を蘇らせる運動について、「九州電力初め国土交通省や関係各処に働きかけて、活動を推進している。竹田らしい生態系を生かした町造りを進めていきたい」と報告があった。また、懸案の町村合併については、平成17年3月31日までの期限が切られており、特別委員会を設けて

## 第十七回 関東同窓会

### ご案内

本年度は深緑の庭園風情を満喫頂きたく、天下の名園「椿山荘」にて開催することに決まりました。ご同窓の皆様、お誘い合わせの上、多数のご来場をお待ち致しております。尚、会場は学年別に椅子席を準備。先輩後輩の交流にご期待下さい。

### 日時

平成十五年六月廿一日(土)

受付 AM十一時開始

### 場所

椿山荘(文京区関口)

(オリオンの間)

プラザ5F

### ●総会 ●懇親会 ●企画

### 当番幹事

第十四期(昭37年卒)

第二十四期(昭47年卒)

### 企画委員長

桑島 輝茂

(次頁へ続く)

# フォトで綴る!! 第16回総会懇親会風景



長吉会長の挨拶



大分県東京事務所  
飯田所長他ご来賓の方々。

## プログラム

12時00分～15時00分  
(受付開始 11時00分)

### 「総会の部」

- 1、開会のことば
- 2、会長あいさつ
- 3、会務・会計報告
- 4、監査報告
- 5、来賓あいさつ

### 「懇親会の部」

- 1、乾杯
- 2、会食・歓談
- 3、アトラクション
- 4、当番幹事引継ぎ
- 5、「校歌」斉唱
- 6、閉会のことば



こ来賓安部校長の挨拶



新・旧会長の挨拶



土居新本部同窓会長

田北前本部同窓会長

## 竹田高等学校関東同窓会新役員名簿

(平成15年5月1日現在)

### 相談役

高宮 昇 (昭8年卒)  
渡辺 正治 (昭10年卒)  
伊東 七五三 (昭20年卒)  
近藤 秋男 (昭23年卒)  
長吉 泉 (昭26年卒)

### 顧問

中川 清次 (昭4年卒)  
田部 健 (昭11年卒)  
石原 田鶴子 (昭14年卒)  
徳丸 大典 (昭20年卒)  
池内 勇吉 (昭23年卒)  
渡邊 真一 (昭23年卒)

里見 菊雄 (昭26年卒)  
阿南 一成 (昭31年卒)

会長 佐藤 映之 (昭28年卒)

副会長 栗生 利信 (昭23年卒)  
神田 清 (昭26年卒)  
上村 マサ子 (昭27年卒)  
西 誠 (昭30年卒)

監事 坂本 勇 (昭28年卒)  
工藤 敏暢 (昭29年卒)

幹事 名簿委員長 和田 剛 (昭34年卒)

### 幹事長

用正 靖彦 (昭30年卒)

副幹事長 酒井 俊治 (昭35年卒)

総務委員長(兼務) 西 誠 (昭30年卒)

企画委員長 桑島 輝茂 (昭42年卒)  
組織委員長 後藤 猛士 (昭41年卒)

広報委員長 佐藤 毅士 (昭28年卒)  
名簿委員長 和田 剛 (昭34年卒)

(前頁より続き)  
対応を計っている旨報告がされた。

### (報告の要旨)

竹田は昭和29年に町村合併を果たして竹田市となったが、今回は平成の大合併と謳われ、構造改革並びに地方の厳しい財政対策を行うことになる。竹田市も80億円の借金を抱えている。現在各町村で任意協議会が中心になって地元での協議、意見集約を進めているが、来週には方向性が示され具体的な作業が始まることになる。

22ヶ月の準備期間が必要とされ、期限を考慮するとあまり余裕はない。平成15年3月までに法定協議会を発足させ

具体案を市民に提起する。

最後に、昨年クラシック音楽プロデューサー・吉武氏(久住出身)から提案のあった滝廉太郎の没後100年に関連する音楽事業に議題に移ったが、地元でのクラシック音楽に関する人材や財政問題等々難しい問題が多々あり、地元の人達から喚起される事柄として進めていかなければ難しいのではとの意見が出された。菅観光協会会長より、地元の人材については、竹楽に関する苦労話と、このイベントを通じて地元での色々な企画について活躍が期待される人材が育つてきており、今後が楽しみであるとの報告が添えられた。



盛り上がったアトラクション  
青春の歌声 校歌斉唱  
みんな元気だな!!



(一) 平成十三年  
会務・会計報告

- 平成十三年四月十三日(金)  
幹事会 於 学士会館  
出席三五名
- 役員改選について
- 会則一部改訂について
- 総会・懇親会運営内容再確認
- 総会・懇親会経費予算について



日高幹事 閉会のことば



当番幹事による「心温かい」受付

会計報告

収支計算報告書

(平13.4.1から平14.3.31まで)

1. 収 入			
①	維持会費	1,903,820円	費
②	維持会費	1,892,000円	費
③	維持会費	73,000円	儀
④	維持会費	62円	息
⑤	維持会費	5,600円	入
	計	3,874,482円	
	前期繰越	658,481円	
	合 計	4,532,963円	
2. 支 出			
①	維持会費	2,329,799円	費
②	維持会費	446,903円	費
③	維持会費	7,202円	費
④	維持会費	383,465円	費
⑤	維持会費	347,424円	費
⑥	維持会費	21,543円	費
	計	3,536,336円	
	次期繰越	996,627円	
	合 計	4,532,963円	
3. 次期繰越の内訳			
①	現金	26,010円	
②	預 金	970,617円	
	計	996,627円	

上記の通り報告します。

平成14年4月10日  
幹事長 用正 靖彦

監査報告書

監査の結果、この収支計算報告書は、適正かつ正確であることを認めます。

平成14年4月4日  
監事 得丸 典一  
監事 渡邊 大真

- 平成十二年度収支状況説明  
維持会員及び維持会費状況説明  
明
- 平成十三年五月十二日(土)  
第十五回総会・懇親会の案内  
状発送 参加三〇名
- 平成十三年七月十四日(出)  
第十五回総会・懇親会  
於 センチュリーハイアット  
出席二二六名
- 当番幹事 昭三五年卒、昭四  
五年卒が担当
- 開会、会長挨拶、会務、会計  
報告、監査報告
- 会則の一部改訂議決、来賓挨  
拶、乾杯
- アトラクションは「小林淑郎  
とハッピートラッド」による  
なつかしのスイングジャズ演  
奏
- 郷土特産品コーナー設置、  
出席者全員土産
- 平成十三年九月八日(出)  
総会・懇親会の反省会兼慰  
労会 於 日立金属和歌山  
出席二二名
- 平成十三年十月三十日(火)  
第十五回総会・懇親会の総括  
秋の定例役員会  
於 学士会館 出席二一名
- 秋の定例幹事会日程、議題に  
ついて
- 平成十三年十一月二十六日(月)  
秋の定例幹事会 於 学士会  
館 出席二二名
- 第十五回総会・懇親会の結果  
報告
- 第十六回総会・懇親会に向け  
ての日程確認
- 維持会員状況報告  
名簿発行について
- 平成十四年二月十五日(金)  
春の定例役員会  
於 学士会館 出席二二名

会計報告は平成十四年四月十日に得丸大典監事が監査を実施し、適正かつ正確である旨の報告があり、総会において承認可決されました。

(2) 会計報告

(次表参照)



●春の定例幹事会日程、議題について  
●名簿発行進行状況報告  
●ホームページについて検討

同窓会長に就任一年目

## 『同窓会再燃の道を探して…』



同窓会長 土居 平治 (昭27年卒)

### 道を探して…

動を覚えました。

かつて、島崎藤村が長野の母校を訪れ、講演の折の言葉「言葉に繋がるふるさと、血に繋がるふるさと、心に繋がるふるさと」一瞬思い起してたしかな絆に身の幸せを感じました。

我が母校、誇り高き先人たちの足跡を顧みる時、思想、芸術、学問、実業界などに多くの人材を輩出し、偉大なる人物が生まれたその土壌は、小藩時代から国(藩)は小さく、経済力も弱いからではなかったのではないかと思う。

経済力の弱さは、学問、教育を重視する風潮を生み、自主独立、進取の校風をはぐくみ、それが優れた人材を生む大きな要因となったのである。その風土が今なお生き続けているのが何よりも嬉しい。

竹高生徒の声は、明るく大きく「爽やか挨拶」を旨として伸び伸びと育っている現実を見る時将来が楽しみである。

「教育熱心な校風、家風として人に優しく、自然に優しく、自

分には厳しく、忍耐強く、逆境

に強く、少々なことではへこたれない社会人に育って欲しいと願うばかり」そして、二十一世紀の大空に向って飛翔して欲しい。それが同窓会先輩たちの期待であり、願いである。

さて、此度会長として各地の同窓会に出席をさせていただき心に思うことがあります。古郷を遠く離れて幾歳月、「里への思い」「母校への思い」は温かく、お寄せ下さる優しさに感動致しました。それぞれに地域性がある、会は和み、話はずみ時

が流れました。そこで本家わが竹田の同窓会の在り方、運び方はこれでよいのか、申し訳けないのではないかと言う反省です。かつての元気はなく、水は流れず澁みがち、本家が不完全燃焼ではないのか。反省はしきり。

輝かしい歴史と伝統のある名門母校は二年後に創立百十周年を迎え、それまでに再構築しようと思気込んで居り、母校本家改修繕請方棟梁は私の仕事と定め微力を尽す所存であります。

幸か、不幸か私の職業はL・Pガス販売業。第一種可燃性ガスであり、青い炎を燃やしたいものと考えて居ります。

同窓会会員各位の母校への「思い入れ」を大切に力不足ではありますが努力したいと思えます。

どうか各位の絶大なるご協力ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

竹田高校在校生への思いと、会長の決意の一端を申し述べご挨拶とさせていただきます。

平成十五年二月吉日

土居 平治



竹灯笼(武家屋敷通り)

暦の上では立春はすでに過ぎ、今年の冬の寒さはことの外厳しく、吉丸一昌の詩「春は名のみの風の寒さよ……」がびったりしそうな早春の豊後路の今日この頃です。関東同窓会の皆様におかれましてはご健勝にてお越しのことと拝察申し上げます。

どうか同窓会々員各位の温いご支援ご助言を賜わり、絶大なるご協力を仰ぎながら役を果たし所存であります。今後共何卒宜敷しくお願い申し上げます。昨年の夏、就任以来矢次ぎ早に、関東同窓会、福岡会、大分別府会、県庁臥牛会と次々と声をお掛けいただき、出席をさせていただきました。改めて同窓、同郷の有難さ、歴史の重さ、懐の広さに何んとも言えない温もりがあり、感激一入、深く感

動を覚えました。かつて、島崎藤村が長野の母校を訪れ、講演の折の言葉「言葉に繋がるふるさと、血に繋がるふるさと、心に繋がるふるさと」一瞬思い起してたしかな絆に身の幸せを感じました。我が母校、誇り高き先人たちの足跡を顧みる時、思想、芸術、学問、実業界などに多くの人材を輩出し、偉大なる人物が生まれたその土壌は、小藩時代から国(藩)は小さく、経済力も弱いからではなかったのではないかと思う。

経済力の弱さは、学問、教育を重視する風潮を生み、自主独立、進取の校風をはぐくみ、それが優れた人材を生む大きな要因となったのである。その風土が今なお生き続けているのが何よりも嬉しい。竹高生徒の声は、明るく大きく「爽やか挨拶」を旨として伸び伸びと育っている現実を見る時将来が楽しみである。「教育熱心な校風、家風として人に優しく、自然に優しく、自



燃える!!

# クラス会・同期会

## 平成十四年度 竹中四十五期クラス会 を東京上野で開催

堀 修一郎 (昭20年卒)

十月一日(火) 不忍の池の辺に建ち、敷地内に森岡外が新婚生活を送り、文壇処女作「舞姫」を発表したとされる日本家屋の旧邸を残す「水月ホテル臨外荘」で定期クラス会を開催した。この会は、例年竹田や別府等九州で行われているが、今年初めて東京で開くこととなった。集合時間午後三時、折しも観測史上最大級と報道された台風二十一号が京浜地区を直撃すべく北上を続け、暗雲立ち込め風雨は、強まりつつあった。

出席者は、関東周辺の在住九名、関西、九州在

住十三名の総勢二十二名、卒業以来五十七年を経て再会の懐かしさと喜びの中で、午後六時宴会開始、那須幹事の司会、得丸幹事の開会に至る経過報告、吉良礼三幹事の「頭をリフレッシュユしてプラス思考で未来を語り



大分県立竹田中学校45期クラス会

大分県立竹田中学校 45期会 平成14年10月1日 於 水月ホテル臨外荘

合おう」との力強い挨拶に続き、渡部喜代美さんからは、乾杯に続いて「終戦の詔勅」「教育勅語」など、多感な少年時代の私達に多くの感化をもたらした貴重な資料も頂き、秋の夜長をお国訛りで語り合い、美酒に酔い、校歌を森にひびかせ、お互いの健康を祈念して閉会、嵐は意識の外に去っていた。

(堀 記)

## 三十五年目の修学旅行 竹田高校四十二年卒三十五年記念同窓会―晩秋の箱根路へ

後藤 猛士 (昭41年卒)

この秋一番の好天に恵まれた十一月二十三日、二十四日の両日、竹田高校昭和四十一年卒業者の三十五年記念同窓会が、三十五周年目の修学旅行として引率の後藤勝彦先生外七十五名の生徒が集合し、紅葉真っ盛りの晩秋の箱根湯元・ホテル南風荘にて開催されました。

雲一つない秋晴れの空が柿色の空に変わり、箱根の山々に夕暮れの静寂が漂う頃、北は札幌から、九州各県、そして竹田か

ら集まる同級生の姿でたちまちロビーは、お賑わいでした。

まずは、箱根の湯で疲れを流して頂き、六時からの記念撮影もそこそこ引率の後藤先生の「今日の修学旅行では、飲酒・喫煙は許可するので大いに楽しんで下さい」という挨拶を頂き、四人の美女による乾杯の音頭で宴が開かれました。

九州から持参した自家製のかぼすや焼酎の差入れもあり杯を一杯二杯と重ねる頃には三十五年前の顔付きに戻り、もう高校生！たちまちあちこちに輪ができあがり宴は最高潮に！そこに在京幹事八名のカンカン踊りが突然飛び出し高校時代からは想像もつかない変身ぶりにびっくりするやら大騒ぎ、そしてじゃんけんゲーム等で盛り上がったところで瞬く間の閉会の時が！

校歌を高らかに歌い上げ、すぐに別会場に設けた二次会へと



竹田高校昭和41年卒業生35周年記念同窓会 平成13年11月23日 於 箱根湯本 ホテル南風荘

全員が集合し、すっかり高校生に戻った同窓生は歌や踊りが飛び出し、午後十一時過ぎには部屋に戻っての三次会へとなごり惜しい時が過ぎて行きました。翌朝も秋晴れの最高の朝を迎



えました。記念写真も出来上がり、全員で朝食を終えらるともう別れの時でした。朝一番で帰る同窓生を見送り、ゴルフのコースには、十人の方が参加し全員素晴らしいスコアが出たのとことです。

もう一つの東京観光バスツアーは、夕方東京を発つ人達も含め四十一人が参加し一路横浜へと向い金色に輝く山下公園の銀杏並木の歓迎を受け、ランドマーカータワーから中華街での飲茶での昼食そしてベイブリッジ・レインボーブリッジ等を渡りお台場へと！ここで夕方の便で帰る方々ともお別れをしました。

やがて修学旅行のバスは夕暮れ迫る薄紫色の海、光り輝く東京の街へと最後の目的地新宿へと進み午後六時到着。新宿では食事兼ねてショーを楽しみ午後九時、二日間の全ての日程も終了。

最高の同級生を持った喜びと三年後の再会を誓いそれぞれの帰り路につきました。

(追記)

この三十五周年記念同窓会の企画段階から竹田を国際音楽都市にという夢が動き出しました。既に皆さんはご存知かも知れま

せんが京都在住の同級生の吉竹達雄君は二十二世紀クラブを通じて「九〇〇円コンサート」を主催し音楽の世界で大活躍をしております。

プロデューサーとして世界のアーティストとのパイプを生かして竹田を情報時代の音楽の発信基地とし、世界で活躍するアーティストの竹田への招致・国際音楽都市竹田づくりを目指す運動を始めました。滝廉太郎の留学したドイツ・ライプツヒと音楽姉妹都市提携等を通じての竹田の活性化の一つにしたいと考えております。我々同窓生も故郷発展のために微力ながら協力・支援したいと思えます。是非皆様にもご協力の程宜しくお願い致します。

卒業五十周年記念  
竹菁会 (別府)

加藤 憲明 (昭27年卒)

おお 元気しちよったな  
また元氣じ 会いてえなあ

人への進化も故人の生誕も、偶然のまた偶然、奇跡中の奇跡

という。同じ列島ではほぼ同じ年に生まれ、同じ学び舎に学んだというのは、偶然にしてはあまりにも運命的だ。

朝鮮戦争、講和、安保の激動のさ中に卒業し、高度経済成長の日々に半生を生きて家族を養い、今古稀を迎える。

これまで竹田、長湯、東京、琵琶湖、竹田と三々五年ごとにもたれた竹菁会総会が、今回は卒業五十年記念ということ、百二十三名の参加をえて、別府のホテル白菊で開かれた。

現校長阿部義和先生をはじめ諸先生方の出席をいただき、はるばるブラジルから駆けつけた高橋君、二十数年来の難病を押し杖で参加した塩手君、また卒業以来はじめて会った友など、今回は最後に集った朋友たち



大分県立竹田高等学校昭和27年卒業 竹菁会50周年記念大分大会 (於 別府・ホテル白菊) H.14.11.26

ちの熱い思いが胸に迫る。

大分千龍会会員の祝い唄や別府のATU大学留学生の舞踊などの出し物に続いて祝賀会に入り、歓会宴楽、杯酒談笑…。とにかく語り合うには時間が少な

すぎた。

翌日は、別府・国東の観光組とゴルフ組に別れてそれぞれに楽しみ、夜はくにさき望海苑で連夜の宴会で盛り上がり、再会を約し散会となった。

# 維持会費ご負担のお礼とお願い

\*関東同窓会は、ご承知のとおり、維持会員の皆様の日頃からの、深いご理解とご協力に支えられて、同窓会の運営が安定的なありゆきを続けております。

\*未済となっております方には、何かと出費ご多端の折かとも思いますが、ご負担についてのご協力方よろしくお願い申し上げます。

## 平成14年度年会費納入者芳名簿

(平成14・4・15・3・15)「総務委員会」

お名前もれがありましたら、同窓会事務局までご連絡下さい。

TEL 0467(31)5715 FAX 0467(31)5715

### 「旧制中学の部」

- 昭和4年度 中川清次、太田克己
- 昭和6年度 山口立
- 昭和8年度 高宮昇
- 昭和10年度 渡辺正治
- 昭和11年度 田部健、武藤省三
- 昭和15年度 須藤勲二
- 昭和16年度 岩田孝
- 昭和17年度 高山英一
- 昭和18年度 森一郎
- 昭和19年度 服部舜次、後藤忠士
- 昭和20年度 足立五郎、伊東七五三、八堀健一、渡辺龍雄、大塚達夫、伊東健二、吉良禮三、得丸大典、那須隆澄、前田健、堀修一朗

### 「新制高校の部」

- 昭和14年度 倉田敏子
- 昭和15年度 石原田鶴子、小倉セツ
- 昭和16年度 植山素子
- 昭和17年度 広瀬尊子、青井房子
- 昭和20年度 脇本安子
- 昭和21年度 寺田タツ
- 昭和23年度 得丸サヨ、村上福子、中尾照代
- 昭和26年度 梶井和子
- 昭和23年度 (稲葉会)石原代表
- 昭和24年度 安藤俊哉、新名義晴
- 昭和25年度 三宅英一
- 昭和26年度 飯倉一郎、田北忠、本田仁夫、森義幸、山辺博治
- 昭和26年度 阿南惟正、飯倉一郎、伊藤英介、今水博彬、牛島健一、大崎員雄、神田清、吉良欣一、佐藤収、里見菊雄、志生野温夫、高松良雄、高松梯子、都築義範、長吉泉、濱口鈴子、別府正克、大坪孝子、安藤哲、吉野昭重、重田英子、高山茂美、飯倉成憲、後藤美代子、石井幸子

### 「旧制高女の部」

- 昭和8年度 久保タケ、三宮静子
- 昭和9年度 野口初子、小西ハル
- 昭和11年度 阿南幸子、内山俱子
- 昭和11年度 飛田芳子、佐藤ナルミ、中村恒子、武野律子
- 昭和13年度 石井シズエ、三代照子

昭和27年度

- 阿南淑子、甲斐智津子、金子一也、上村マサ子、高須敏士、工藤謙知、得丸正哉、津田美枝、後藤利治、鎌田昭子、伊野弘子

昭和28年度

- 江崎和彦、飯島資裕、河野元義、坂本勇、佐藤映之、中村シズ子、堀利巨、古謝正祐、堀博、麻生巖、佐藤毅士、西美智子、工藤裕一

昭和29年度

- 秋吉政夫、瓦林義昭、工藤敏暢、小坂錦三、下川正見、田北元良、林盛生、平本照鷹、深田莞子、八木国晴、山口雄三、久保博紀、得丸郁子、小島妙子、山田百子、秋元幹夫、小代孝、堀光宏、松澤立雄、足達玄純、後藤忠臣、菅章江、阿南忠義、大塚隆石、川含文彦、佐藤清八、西誠、室慎一、盛哲男、用正靖彦、西山尚子、森勝幸、真田はつみ、丸山郁代、佐藤輝男、齊藤昭義、葛生良子、吉川忠啓、後藤善郎、紀成鴻次、亀崎正幸

昭和30年度

- 上田武男、阿南一成、内田豪、佐藤順之助、生野勝、河野昭夫、田爪善三、林豊美、西山恭子、飯田貞子、中村和子

昭和31年度

- 阿南暉、小代邦弘、高橋誠、辻亨、利根範子、山口靖之、藤原保範、佐藤充子、三浦弘子、松良邦夫、大崎敏夫、大岩泰、鈴木八千代、岡部由子

昭和32年度

昭和33年度

- 板井洋一郎、佐藤滋一郎、塔尾美子、牧壮亮、立川美知、加藤典史、長田美貴子、森河清、片山研、小代基秀、上野好生、近藤吉明、土屋健児、山下忠男、首藤紀夫

昭和34年度

- 後藤大林、武内英則、服部恭一、吉崎祥子、齊藤英昭、水野紀代子、阿南洋子、津下渥子、和田剛、菅紀代巳、松良修二、小澤康三、市村真一

昭和35年度

- 高辻保之、津田元子、麻生三郎、大塚忠士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、副田健治、平手肇、用正ツキコ、宗像鹿子、酒井俊治、衛藤俊司、梅田芳江、河野達雄、小野次郎、原孝子、鍵小野章、松本雅愛、木村正毅、田北喜代子、平井和子、大岡房子、古庄隆史、澤田恵子、山崎一守、伊藤和子、福井不二子、三枝琉美子、木村共子、衛藤一征、佐々田ヤエ子、山崎巖、岡村宏子

昭和36年度

- 得丸和子、桃溪謙次郎、白杵毅彦、朝見隆子、木内千草、阿南博利、安藤俊和、古澤精也、江口久枝

昭和37年度

- 緒方信義、熊谷克直、田北則夫、古川勝俊、高辻紀代、古庄史郎、中野裕子

昭和38年度

- 後藤安、堀友朗、吉岡龍雄、角田寛、羽立圭爾、藤田和宏、伊藤大義、大坂好美、堀田大

昭和39年度

- 昭和40年度

昭和41年度

- 阿南裕康、河野精一、後藤猛士、後藤彰二、都文生、衛藤昌平、川口和夫、伊藤誠至、栗田信子、竹下勉、山田房子、工藤弘明、坂本美穂子、池田典幸、桑島輝茂、真田正紀、羽田野寿一郎、児玉幹生、橋本ともえ、堀正孝、三代治次、和田和子、佐藤美千代、山本英次、後藤文夫、斎藤悦子、石丸章代、吉水小夜子、甲斐文夫、高野優子、田口由美子

昭和42年度

- 工藤三男、倉本正博、都俊生、酒井真美子、小野福代、菅裕子、鈴木薫、本田壮一、田方陽子

昭和43年度

- 富田一彦、小代基昭、川口弘展

昭和44年度

- 日高慶記、保坂南子、工藤美智子、本田徹、下田和広、後藤則良、秋山富士子、因幸子、羽田野耕一、野村邦博、工藤芳雄、高良美枝子、橋爪潤一郎、工藤恭一、蓮池智子

昭和45年度

- 尼田京子

昭和46年度

- 北島知恵、本田美保子、直木剛

昭和47年度

以上340名・1団体の皆様より維持会費の納入をいただきました。ご支援いただきました心より御礼申し上げます。



先般、会員名簿発行に伴う協力金のご支援をお願いしましたところ、多くの会員より協力をいただきました。ご支援に感謝いたしますとともに、募金結果を下記にまとめ、ご報告いたします。

## 会員名簿発行協力金 募金結果のご報告 (郵便局3/5取扱分まで)

区 分	郵便為替	現 金	合 計	
1万円	4名		4名	40,000
7千円	1名		1名	7,000
5千円	17名	2名	19名	95,000
3千円	17名		17名	51,000
2千円	272名	8名	280名	560,000
1千5百円	2名	2名	4名	6,000
1千円	176名	6名	182名	182,000
合 計	489名	18名	507名	941,000円

会計帳簿に計上した為替手数料を控除した正味金額 922,080円

941,000円を賛助会員数507名で除した一人当たり金額 1,856円

名簿作成、配布に要した費用 名簿代 2,100部 651,472円

配送料 2,030部 426,772円

合 計 1,078,244円

平成15年3月10日

総務委員長 西 誠

名簿委員長 和田 剛



# ふるさと名所紀行



香りのできるまで  
匂いを感じる人体のメカニズムから、香料の種類や香りの分類、ヨーロッパにおけるハーブ医学の移り変わり、香りの創作法まで、香りについて様々な方面から紹介していきます。ここでは、パネルの前に香料の現物を設置し、パネルで説明した香りを実際に体験できるようにしています。今は使用されていないムスク(麝香)やアンバーgris(龍涎香)などもあり、貴重な体験ができます。



香庵



オマーン



現代の香水



シアター

## 「大分香りの森 博物館」

佐藤 毅士(昭28年卒)

世界でも珍しい香りを中心とした博物館が、大分県津原町に広がる平成森林公園に、「おおいた香りの森博物館」として平成八年にオープンし、全国から年間七万五千人の人々が来館している。

一村一文化の一環として建設されたこの博物館は、視覚文化味覚文化に継ぐ第三の文化といわれる香りの文化を世界的な視野から取り上げ、香りの本場フランスのガラスをもしのごく充実した内容を備えている。森林の中に建つ中世ヨーロッパをイメージした建物は、自然とふれあいを大切にしたいもので正面玄関前の色ガラスと花をイメージした噴水はシンボリックな存在である。

○本館展示ゾーン  
「香りの歴史」「アジアの香り」「現代の香水」「香りの出来るまで」など香りについての様々な方面から紹介。色々な香料の

原料を実際に嗅ぐことが可能で貴重な体験をすることが出来る。又ロココサロンやアールサロンなどヨーロッパで香水が流行した時代の貴族の部屋をそのまま再現したゾーンも興味をもって見ることが出来る。

### ○香りの工房

香水、石鹸など香りの製品づくりが自分で出来る工房です。前記の他シャンプリーンス、ボディシャンプー、ボブリーの五コースがあり、一日三回、一回三十名まで体験できます。

### ○香庵

日本の美意識によって培われてきた香道に触れることが出来る香道の道具や香りの原料を展示。

### ○温室

約百二十種類ものハーブが育ち四季を通じていつでも香りの植物を見ることが出来る。この他、シアター、レストラン、ショップなどがあり来館者を楽しませていきます。

アクセスはJR豊肥線竹田駅から車で約三十分。

入館料 大人 七〇〇円

高校生 三五〇円

小中学生 二五〇円

休館日 月曜日

営業時間 九時半～十七時

## 平成十四年度竹田会 大盛會裡に開催

平成十四年十一月八日(金)  
於 中野サンプラザ  
田部 修士(昭42年卒)



里見会長のご挨拶

平成十四年十一月八日中野サンプラザにて関東竹田会の総会・懇談会が盛大に開催された。志生野アナウンサーの司会で総会がスタート、初めに昨春秋以降の物故者へのご冥福をお祈りし黙祷を行った。

竹田会役員及び会員より何か心に残る催しを毎回スケジュールの中に入れて欲しいとの希望もあり、今年竹田市役所の佐伯様にお願いで「臥牛城の歴史に迫る」と題し、昭和60年度以降の西の丸一帯の発掘調査からスタートした城跡修復・保存整備事業に関する写真や図面、本丸、大手門等の復元図をプロジェクトで出し出し、岡城の由来についてのお話しがあった。里見会長より、初めに近藤秋夫様、茅野良勇先生の叙勲の報告があり、「今年も政治経済ともに



ご来賓の阿南市長(上段右3人目)・新同窓会長(上段右2人目)

冴えない状況が続いていますが、竹田市も中津江村に負けずに頑張つて欲しい。」と挨拶があった。続いて、姫野商工会議所会頭が、竹田からの来賓を紹介した。古井議長、菅観光協会会長、内川市議、土居竹田高校新同窓会長、板井氏、後藤氏、特別ご参加の花水木職員の堀様を紹介、阿南市長からは「毎年この会にお招き頂きありがとうございます。年一回の会合ですが、毎月皆様に会っている様な気がして大変うれしく思います。町村合併などを控えて関係者忙しい毎日ですが、地域振興に向けて頑張っています。」と挨拶された。観光協会の賞会長からは、竹田の竹楽を昨年以上に盛り上げようとご苦労されてきた関係者の方々の準備状況と今年のイベントに臨む強い決意表明があり、ステージに備えた竹灯籠に火が灯された。

明大・長吉理事長のご発声で乾杯、懇談会が始まり、竹田からの来賓、初参加の会員等々を取り囲んでの懇談、写真撮影の花が咲いた。

福引では、沢山の会員が竹田の自然薯、椎茸、竹田の名水で育った新米などをゲット、会は最高潮に達した。最後に喉に自慢の面々が壇上上がり、津下氏のリードの下、一同で恒例となった「美しき竹田」「荒城の月」を熱唱、山口副会長の締めで来年の再会を期して会を閉じた。

**掲示板**

●平成十四年春の叙勲

勲二等瑞宝賞

茅野 良男 (昭17年卒)

経歴 大阪大学名誉教授

大阪国際大学教授

●平成十四年春の叙勲

勲四等瑞宝賞

田北 和義 (昭18年卒)

経歴 竹田高校校長

前同窓会会長

同窓生一同、心からお祝いお慶びを申し上げます。

**訃報**

慎んでお知らせ申し上げ、心からご冥福をお祈り致します。

**物故者御芳名**

青井 房子様 (昭16年卒) 平成14年4月23日 没

留高 照幸様 (昭20年卒) 平成14年5月22日 没

瀧野 剛様 (昭22年卒) 平成9年10月26日 没

安藤 徹也様 (昭26年卒) 平成14年6月25日 没

藤原 正孝様 (昭26年卒) 平成15年3月5日 没

淵野 修様 (昭26年卒) 平成15年3月5日 没

飯田 芳信様 (昭29年卒) 平成13年11月10日 没

瓦林 義紹様 (昭29年卒) 平成15年3月20日 没

中野 友幸様 (昭32年卒) 平成14年4月23日 没

佐々木慶子様 (昭36年卒) 平成13年7月 没

三宮 伸様 (昭39年卒) 平成12年7月 没

**会員の皆様へお知らせ!**

◎第十七回関東同窓会

日時 平成十五年六月二十一日(土)

受付 AM十一時開始

場所 椿山荘(文京区関口)

(オリオンの間)

◎竹田会開催のご案内

日時 平成十五年十一月七日(金)

場所 中野サンプラザ

PM六時予定

**あとがき**

●広報委員会として当分の間「ホーム・ページ」の内容と対応の充実を計り度く、会報の発行を年一回にさせて戴きます。

●お詫びと訂正

広報委員一同編集と校正については十分留意万全な対応を行っていましたが前号計報にて栗生さまを栗生さまと誤記致しました。深くお詫び左記の通り訂正致します。

誤 栗生 ↓ 正 栗生

**詩歌・文芸**

山村 伊吹 (昭36年卒)

黄落やわれには早き定年日

秋灯火我執という名の檻に棲む

死に遅れ生き遅れつつ秋の蝶

妻の死の近き予感や紅葉焚く

笑うことなくして小走り十二月



※「投稿」をお待ちしています。

若い世代の皆様様の「クラス会情報」や「特別寄稿」等々ご投稿を特に期待しお待ちしております。

・投稿内容

- ①クラス会情報
- ②故郷の便り
- ③海外便り
- ④会員の語らい
- ⑤詩歌・文芸
- ⑥会員の催し
- ⑦会員消息
- ⑧その他

・連絡先

〒279-0022

千葉県浦安市今川2-10-31

神田 清 宛 (広報委員長)

☎047-354-9456

未来の素材に、  
**Superface**



日本パーカライジング株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋1-15-1 TEL. (03)3278-4357